

# 基本プログラム



**モデル情報の確認**  
今回かかわるモデルに合わせた  
支援の組立てを始める  
特性ワークシート  
氷山モデルワークシート



**学習・職業課題の作成**  
アセスメントに基づく  
マテリアルストラクチャー  
教え方  
再構造化

**クラスルームのセットアップ**  
構造化されたクラスルームの設営  
場所、予定、活動  
視覚的手がかり  
その他の配慮



**グループ発表**  
今日のまとめ  
自閉症の特性  
評価セッション  
作成した学習・職業課題  
自分たちが学んだこと

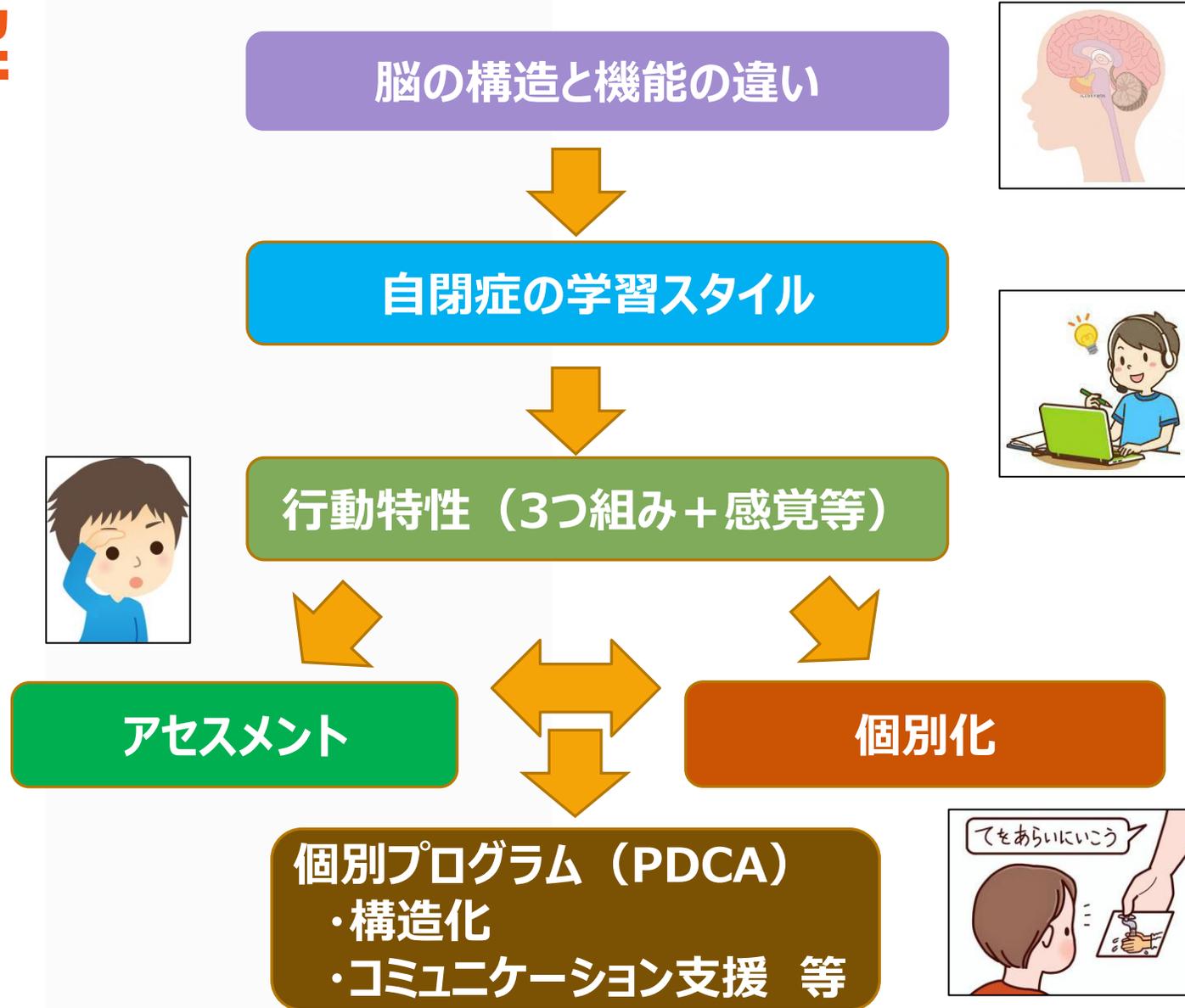
**評価セッションの実施**  
評価課題のピックアップ  
評価セッション（ハンズオン）  
観察の記録  
評価のまとめ



**写真撮影**  
一人ひとりに合わせた設定  
構造化のアイデアはさまざま  
他の人・他の場への応用  
構造化のセンスを磨く

# 自閉症の理解

- 「違い」を理解する
- 学習スタイル
- 行動特性
- 冰山モデル



# 学習スタイル

(TEACCH® Autism Programより)

苦手	強み
暗黙的（潜在的）学習 自動的・直感的な了解 一般化	明示的（顕在的）学習 ルールに基づいた学習 ルーティンの使用
聴覚的な情報処理	視覚的な情報処理
心の理論 社会的認知 全体への注意	細部への注意
実行機能の問題 順序性、計画、開始と終了 整理統合と時間管理	限定的な興味 動機を高める

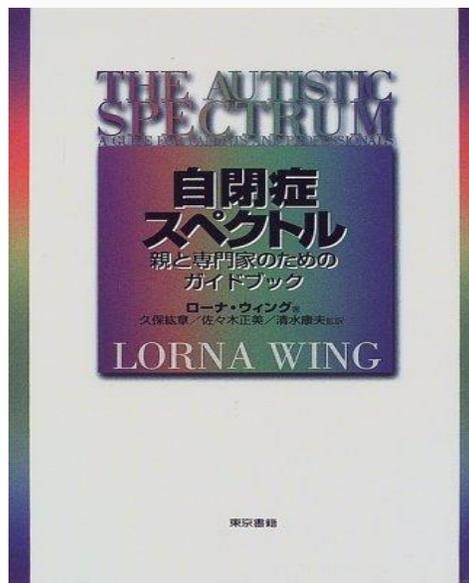
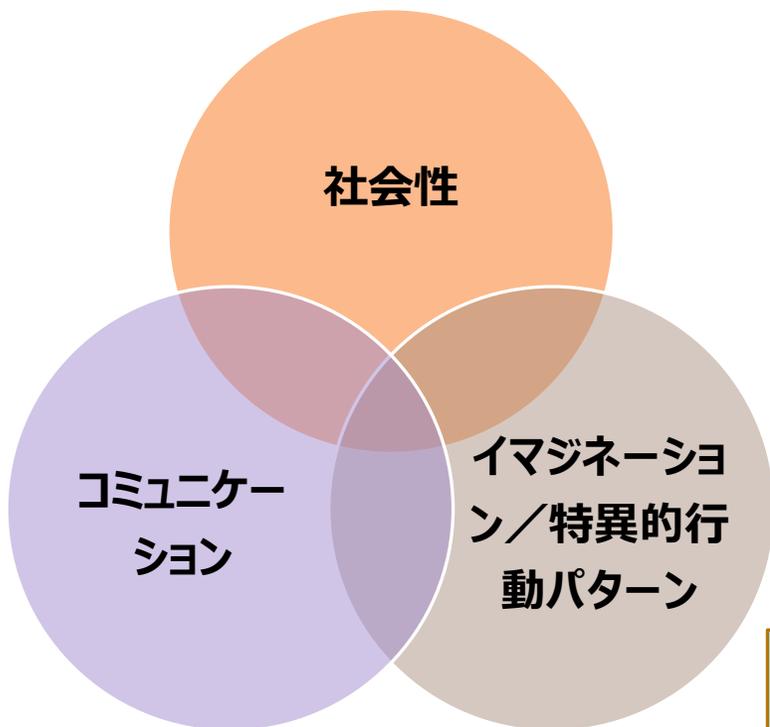


DVD「自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」(朝日新聞厚生文化事業団)

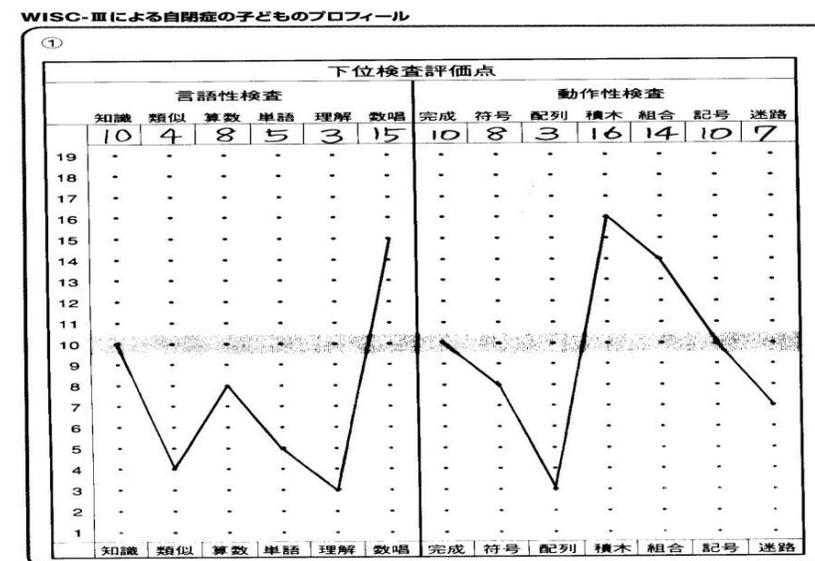
# 行動特性

- 三つ組みの行動特性
- その他の特性：感覚、不安、運動機能障害など
- 他の障害と合併しうる

食べ物の食感や臭いに過敏



ローナ・ウィング『自閉症スペクトルー親と専門家のためのガイドブック』（東京書籍）



内山登紀夫ほか著『高機能自閉症・アスペルガー症候群入門』（中央法規）より

# 自閉症の人の立場に立つと

- 知らない世界で、訳のわからないことばで話しかけられたら・・・
- その不安を訴えたり、やりとりする方法がわからなかったら・・・
- 不快な刺激にいつもさらされたら・・・
- 突然叱られ、突然連れ回され、突然中止されたら・・・
- 今、ここで、何をしたいのかがわからなかったら・・・



NAS (英国自閉症協会) HP  
Too Much Information より

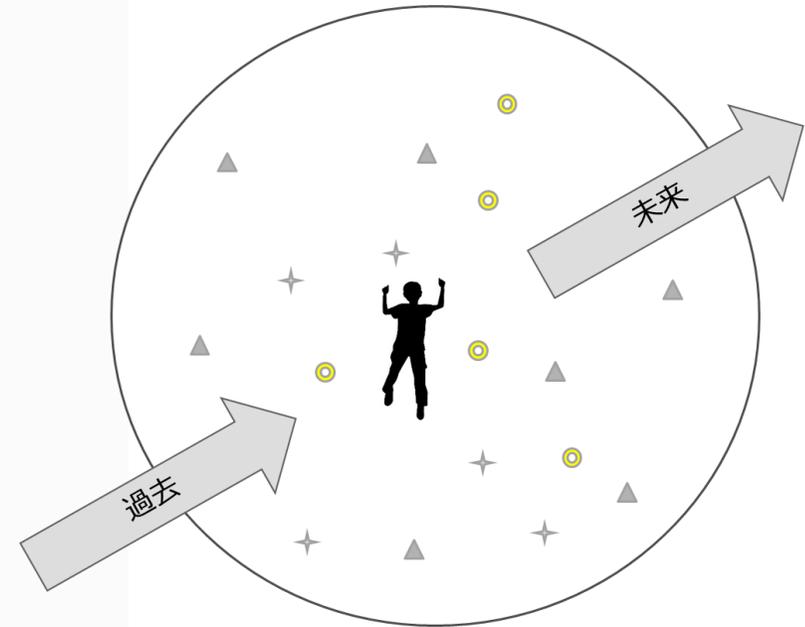
<https://www.autism.org.uk/what-we-do/campaign/public-understanding/too-much-information>



# 構造化による支援

## ■構造化とは

- 自閉症の学習スタイル・行動特性に配慮して
- 今何をするのか、次にどうなるのかなどを、その人の理解レベルや学習スタイルにあわせて、わかりやすく示す方法
- 絵カードや衝立は、構造化のアイデアの1つ
- 構造化がゴールではない（手段である）



# 構造化のアイデア (TEACCH® Autism Programより)

## ■ 物理的整理統合

- 場所の整理、ここで何がおきるか
- 物理的な環境・刺激の調整

## ■ スケジュール

- 時間の流れ・予定・変更を伝える
- 次にどこに行けばいいか知らせる

## ■ ワークシステム

- 何をするか・どれだけするか
- いつ終わるか・次に何かがあるか
- 活動の中身を整理して伝える

## ■ マテリアルストラクチャーと視覚的支援

- どのようにするかを伝える (視覚的組織化、視覚的指示、明瞭化)
- エンゲージメントを高める

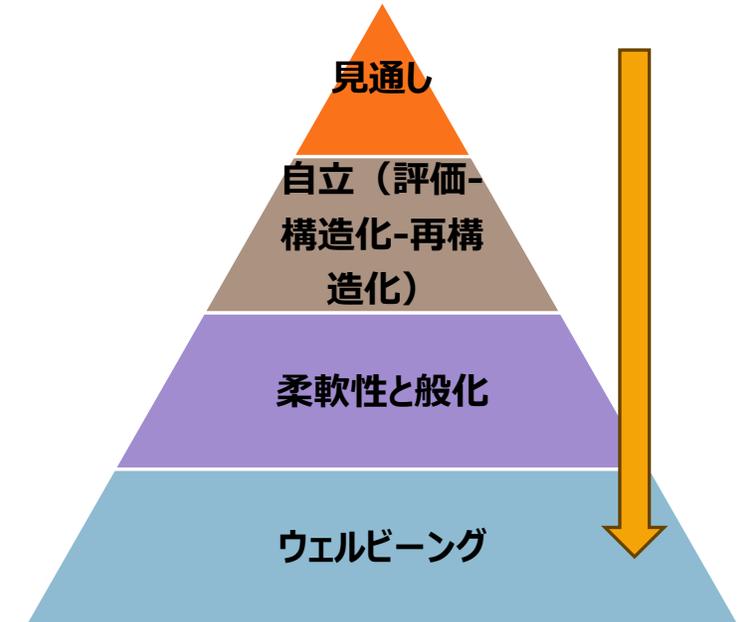


# 構造化のアイデア

(TEACCH® Autism Programより)

- 再構造化を繰り返す
  - うまくいかないときは…
    - 難しすぎる、簡単すぎる
    - 楽しくない
    - 多すぎる
    - 面倒くさい
    - 手応えがない
    - マンネリ などの理由が考えられる
- ↓
- 課題や活動の設定を見直す
  - マテリアルストラクチャーを使う

- できるようになったら…
- 柔軟性を教える
  - 変化や中断を受け入れる
  - 変化や中断を見通せるように
  - 視覚的な手がかりで伝える
- 般化を続ける
  - 活動の場面を広げる、人を変える
  - 内容（スキル）を組み合わせる、発展させる
- 地域生活の中で持っているスキルを発揮する



# コミュニケーションの支援

## ■ 理解の支援

- 構造化のアイデア、生活全体を整える
- ぶだんから、視覚的に、具体的に、簡潔に伝える
- 不安や混乱を助長しない

## ■ 表現の支援

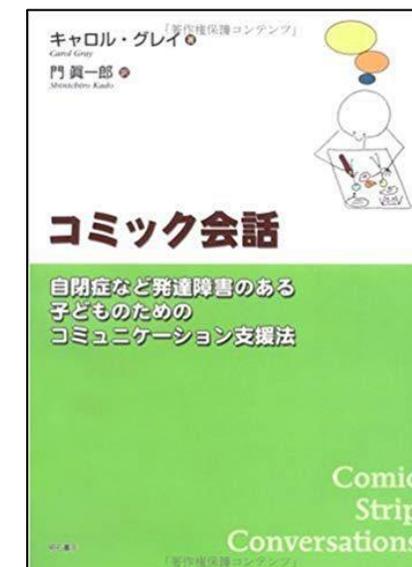
- 応答のコミュニケーション指導は、オウム返しやパター的な反応を助長する
- コミュニケーションサンプルを取って、本人のコミュニケーションスタイルを把握する
- ことば以外の機能的なコミュニケーション方法を教える ⇒例) PECS®
- 適切なストレス対処方法を教える

## ■ 相手とのやり取りの整理

- 会話・グループ活動への参加 ⇒例) ソーシャルクラブ
- 社会的プラグマティクス（社会的語用論）の視点 ⇒例) ソーシャルナラティブ、コミック会話



PECS® コミュニケーションブック



キャロル・グレイ『コミック会話』  
明石書店（2005.5）

# 本人・家族との協働とチームワーク



- **本人の意向を確認する**
  - 支援者は身近な理解者になる
- **家族との協力関係の確立**
  - 親（家族）をパートナーと位置付ける
  - お互いの立場と強みを知る
- **プログラムにおける優先課題を整理する**
  - 発達の適切性
  - 機能性・実用性
  - 自立性・成功の可能性
  - 本人・家族の希望
- **チームで取り組む**
- **対応の統一**
  - 個別プログラムの作成
  - 支援手順書の作成
- **協力と連携**（ゲリー・メジボフ：TEACCHコアヴァリューより）
  - 「相手のより良い部分、可能性に着目する」
  - 「自閉症支援は一個人・一事業所だけではできない、社会全体の問題。だから連携する」

# 強みを活かし、弱みを補う

- 難しいこと・嫌なこと vs 楽しいこと・好きなこと
- 話し、説明、概念的 vs 視覚的、経験的、具体的
- 失敗から学ばせる vs 正しい行動を教える
- 集団、自然な vs 1対1、コントロール
- 定型の発達段階に沿って指導する vs スキルを使う、スキルを補う
  - 例) なぞり書き→ひらがな→漢字 vs 駅名は漢字で書ける
  - 例) お金の概念 vs 自動販売機の使用
- 社会的な賞賛 vs 終わりを理解する、見通しがある
  - 「終わり」の見通しがあることで、前向きに取り組める
  - ほめる・ご褒美は、具体的に、本人にとって手応えのあるものを
- 感覚の過敏さ、不器用さ、その他個別に配慮する事柄を確認する





# 現場での評価 (インフォーマルアセスメント を中心に)



**アセスメントの目的**  
一人ひとりをよく知る  
アセスメントに基づいて  
プログラムを立案する



**3つのアセスメント方法**  
フォーマルアセスメント  
インフォーマルアセスメント  
先般的な観察



**評価セッションの実施**  
評価課題  
プロンプトレベル  
記録の取り方



**評価情報から個別プ  
ログラムの立案へ**  
4つのアイデア  
再構造化  
柔軟性と般化



**課題の発展**  
自立課題をどのように発展さ  
せるか  
再構造化  
柔軟性と般化

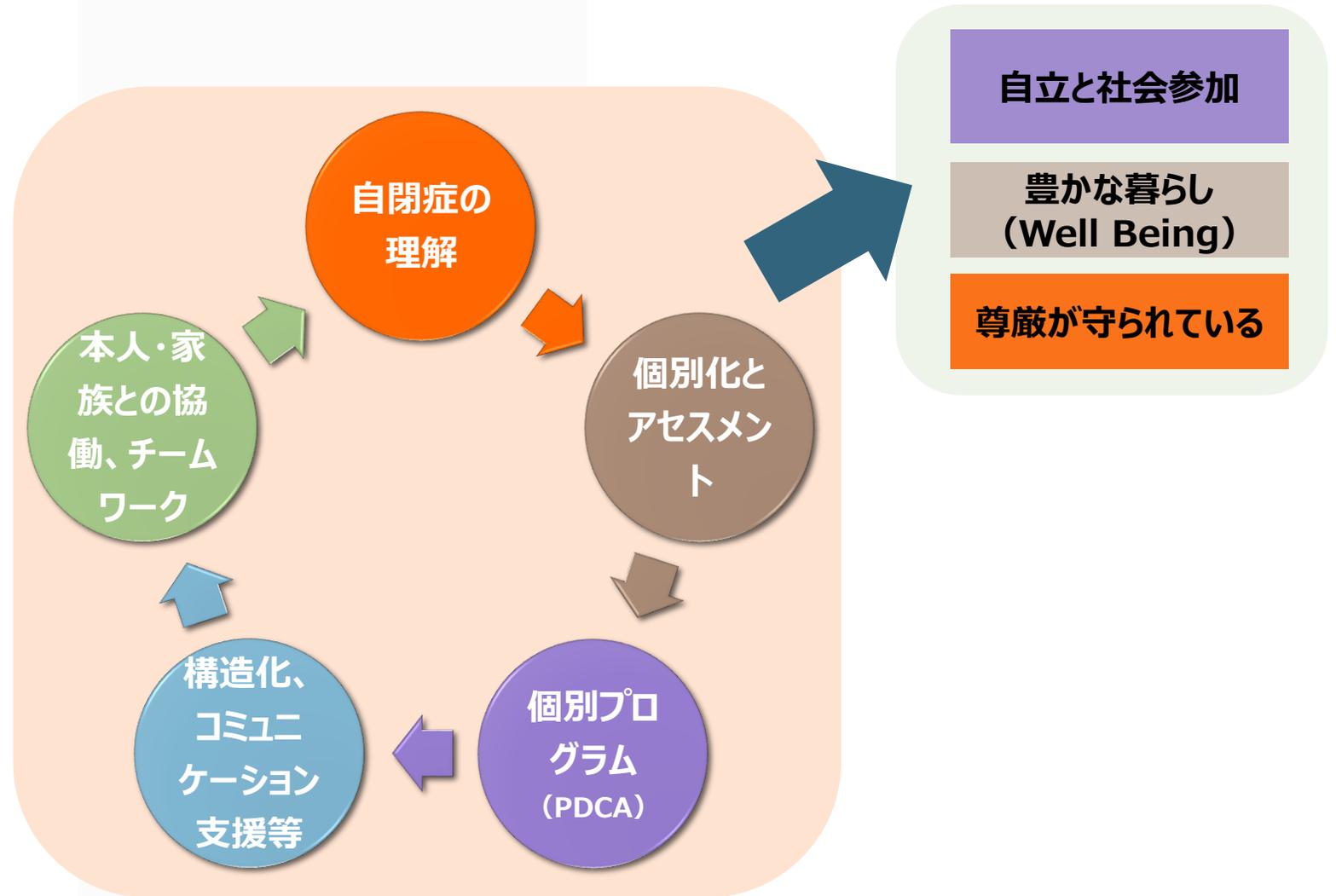


**活動の組立て**  
活動を選ぶ (優先課題)  
課題分析による評価  
場所の整理  
ワークシステムとマテリアルスト  
ラクチャーの適用

# 支援の基本

## ■ <標準的な支援>

- 自閉症の理解
- 個別化（一人ひとりに合わせて考える）
- アセスメントに基づく
- 個別プログラム、PDCAサイクル
- 本人・家族との協働、チームワーク
- 目標は、「自立と社会参加」「豊かな暮らし」「尊厳が守られている」こと
- 継続



# アセスメントの目的

- 一人ひとりをよく知る
  - スキル、興味関心、得意・不得意
  - 学習習慣
  - コミュニケーションの特徴 など
- アセスメントに基づいてプログラムを検討する
  - 思い込みで関わるリスクを減らす
  - アセスメントをしないでプログラムを考えるのは、視力検査をしないで眼鏡を作るようなもの



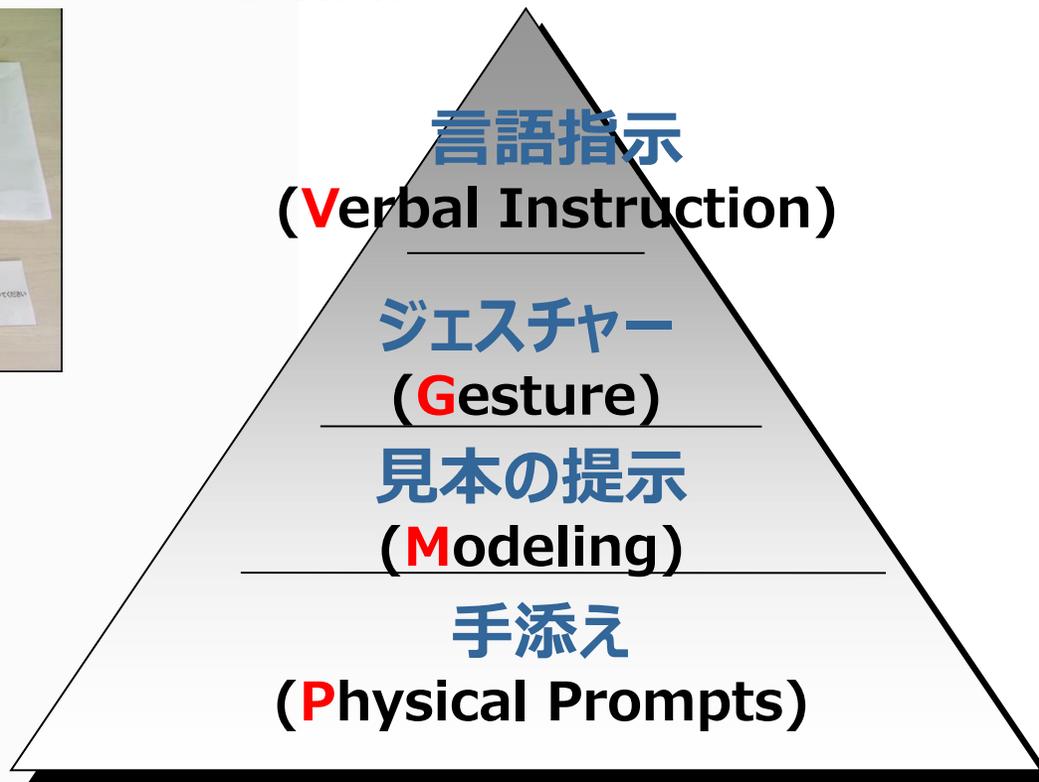
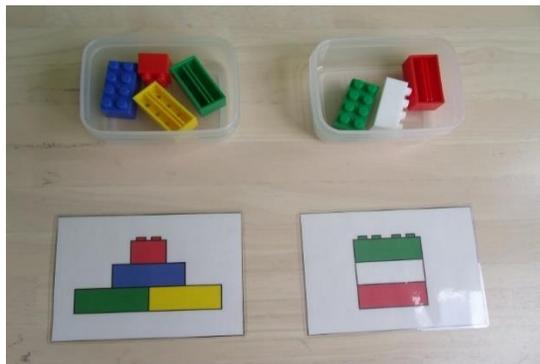
# アセスメントの方法

- **フォーマルアセスメント**
  - 標準化された心理検査・職業検査
- **インフォーマルアセスメント**
  - 日常生活場面での課題設定と観察
  - 学習スタイルと芽生えスキルに注目する
  - できない vs わからない
- **全般的な観察**
  - 構造化されていない環境（自由時間の観察）
  - 障害特性を確認する
- **さまざまな評価情報を組み合わせて統合する**



# 評価課題と評価セッションの実施

- 何を評価するか、テーマを明確にする
- 教授/介入の手続きを整理する（事前にシミュレーションしておく）



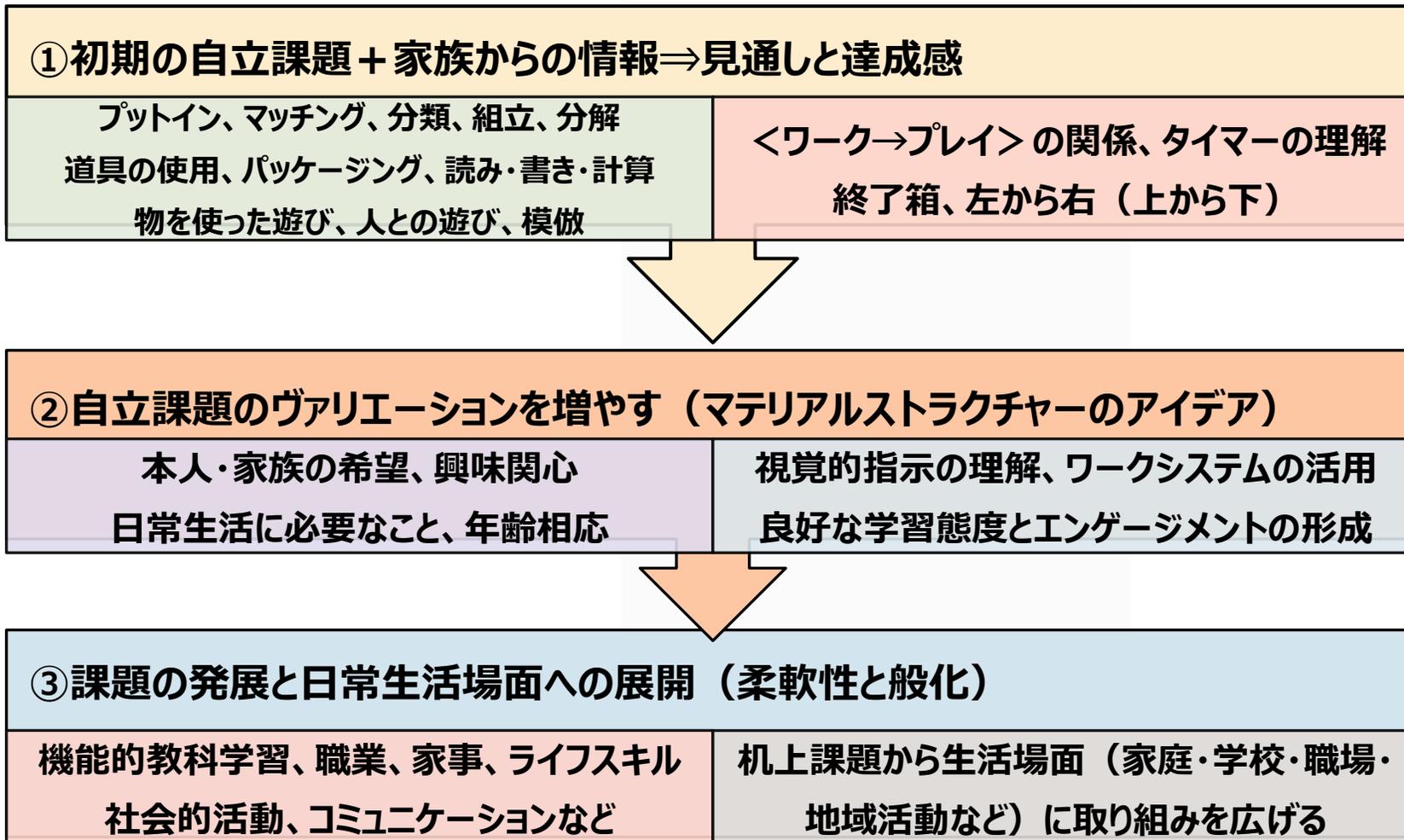
# 評価セッション時の記録の取り方（例）

- 行動単位を意識し、客観的に記録をとる
- 教授者との相互作用にも着目すること
- 解釈や手直しはあとで



領域	評価課題	評価の結果(行動の記録)	今後の示唆
組立	ビーズ通し(10個)	教授者が本人に材料を渡し、「ビーズをひもに通してください」と口頭で伝える	(評価では、少ないプロンプトから介入する)
	①	本人はすぐに課題かごの中のビーズを1つ取って、机をコンコン叩き続ける。ロックングも激しい。ほとんど教授者と視線を合わさない	口頭での理解が難しい物に反応しやすい
	②	次に、教授者は、本人の目の前で「ビーズをひもに入れますよ」と言いながら、実際にやってみせる。教授者のやり方をチラッと見て、本人もビーズをひもに通し始める	モデル提示（実際にやって見せる）が有効
	③	特に指示していないのに、青→赤→黄と色別に最後までビーズを通す。取り組み中、本人からの発言は一切ないが、ビーズ通しが完成すると教授者の顔を見て、小さな声で「できた」と言う	色への意識が強い わかれば、最後まで取り組む表現の限定

# 適切な課題設定のためのステップ



# 活動の組立て



## ■ 活動のテーマを具体的に決める

- 本人、家族の希望
- 発達の適切性（評価に基づく）
- 実用性・機能性
- 成功の可能性、安全、緊急性

## ■ どこでおこなうか、場所を整理する

- 物理的整理統合

## ■ 盛りだくさんにならないように

- 正しいやり方を経験できるように
- 失敗ややり直しにならないように
- スモールステップで取り組む

## ■ 活動の内容を明確にする

- <始まり>と<終わり> <流れ・手順>
- 「課題分析」による評価

## ■ 事前に支援者がシミュレーションしておく

- 教授方法の整理（自立のための教授）

## ■ 構造化のアイデア

- ルーティン、ワークシステム、マテリアルストラクチャーを積極的に適用する
- 道具の工夫、補助具の用意、手順の変更など
- スケジュールで予告する

## ■ 実際に本人に取り組んでもらう

- 自立のための教授と再構造化を続ける

## ■ できるようになったら、日常生活の中に組み込んでいく

# 課題分析の活用

- 活動の始まりから終わりまでを、小さな行動単位（ステップ）に分けて、時系列に並べて記述する
- 各行動単位ごとに自立の度合いを評価する
  - どこが難しいのか、どこを手直しすればいいかを具体的に明らかにする
  - 支援の手立てを検討する：構造化のアイデアなど
- いつも同じ手順、同じかかわり方で、教えていくことができる



## <食器洗いの課題分析（例）>

<u>1)食器を流しにもっていく</u>	<u>P</u>
<u>2)スポンジに洗剤をつける</u>	<u>F</u>
<u>3)食器をスポンジで洗う</u>	<u>E</u>
<u>4)食器を水洗いしカゴに入れる</u>	<u>E</u>
<u>5)スポンジをゆすいで片付ける</u>	<u>E</u>
<u>6)食器を布巾でふく</u>	<u>P</u>
<u>7)食器を食器棚に片付ける</u>	<u>P</u>

P=合格

E=芽生え

F=不合格

# 自立のための教授

- **最初から正しいやり方を教える**
    - 正しいやり方を経験できるように
  - **活動/課題の意味と見通しを伝え、視覚的な手がかりに注目できるようにする**
    - そうすることで、自分で理解し行動することができるように
  - **システム（やり方、進め方）を教える**
  - **教授のプロンプト、タイミングを計画的に設定する**
    - 声かけ～ジェスチャー～見本（モデリング）～身体介助
    - うまくできたら褒める、認める（肯定的に）
    - 自立の度合いにあわせてフェイドアウトしていく
  - **常に評価し、教え方の手直しと再構造化を続ける**
- **プロンプト依存、支援者依存にならないように**
    - 過度なことばかけ、説明・説得、ほのめかし、やり直し、叱責などはNG
    - 混乱や不安をあまり、支援者に注目させることを共闘すると、支援者からの直接的な指示を待つようになる（あるいは攻撃的な行動を誘発する）







継続

